



平成 26 年 7 月 24 日  
海 上 保 安 庁

## 西之島の火山活動の状況（7月23日観測）

7月23日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

### 1. 噴火の状況

これまでの北側火口、南側火口、北側火口と南側火口の間火口の他に、北側火口の北東の海岸近くに新たな火口（北東火口）の全4カ所の火口を確認した。

北側火口では灰色の噴煙を噴出するとともに、約2、3分毎に溶岩片を伴って爆発的噴火を繰り返していた。北東火口では赤熱した溶岩片を伴って灰白色の噴煙を噴出していた。北側火口と南側火口の間火口では青白色の噴煙を噴出していた。南側火口では噴煙等の噴出は認められなかった。

新たに形成された陸地の北東岸で、溶岩流の海への流出に伴う水蒸気を上げていることを確認した。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径6kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

### 2. 新たに形成された陸地の状況

流出した溶岩によって新たに形成された陸地は、5月21日と比較して東方向に拡大していた。

なお、同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授からは、「北側火口の火口底には溶融状態の溶岩が現在も認められ、爆発によって数百mの範囲に溶岩片が飛散している。これまでの観測結果と比べても爆発に伴う噴煙の高度が高くなっており、爆発の規模が大きくなっていると見受けられる。さらに新たな火口も形成されていることから、マグマの供給は依然として活発な状態で、現在の火山活動はここ数ヶ月間の活動に比べて上向きであると思われる。」とのコメントが得られた。

※7月23日時点での形状（暫定値）

・東西：約 1,550 m （5月21日時点 東西：約 1,300 m）

・南北：約 1,050 m （5月21日時点 南北：約 1,050 m）

・面積：約 1.08 平方 km、東京ドームの約 2.3 倍

（5月21日時点 約 0.86 平方 km、東京ドームの約 18 倍）

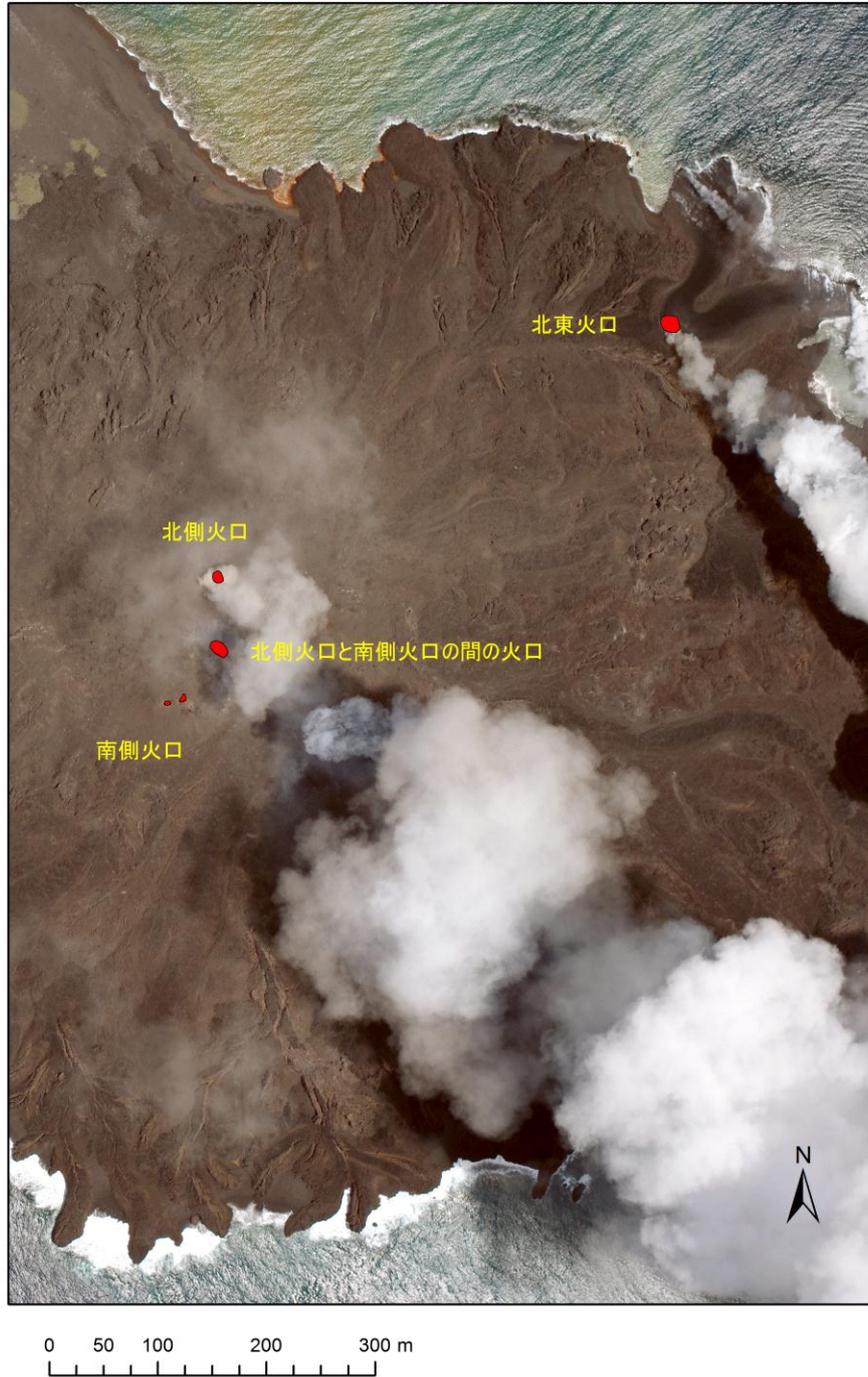


図1 赤色は今回確認された4カ所の火口の位置を示す。(7月23日撮影)



図2 3カ所の火口から噴煙が噴出している。(7月23日撮影)

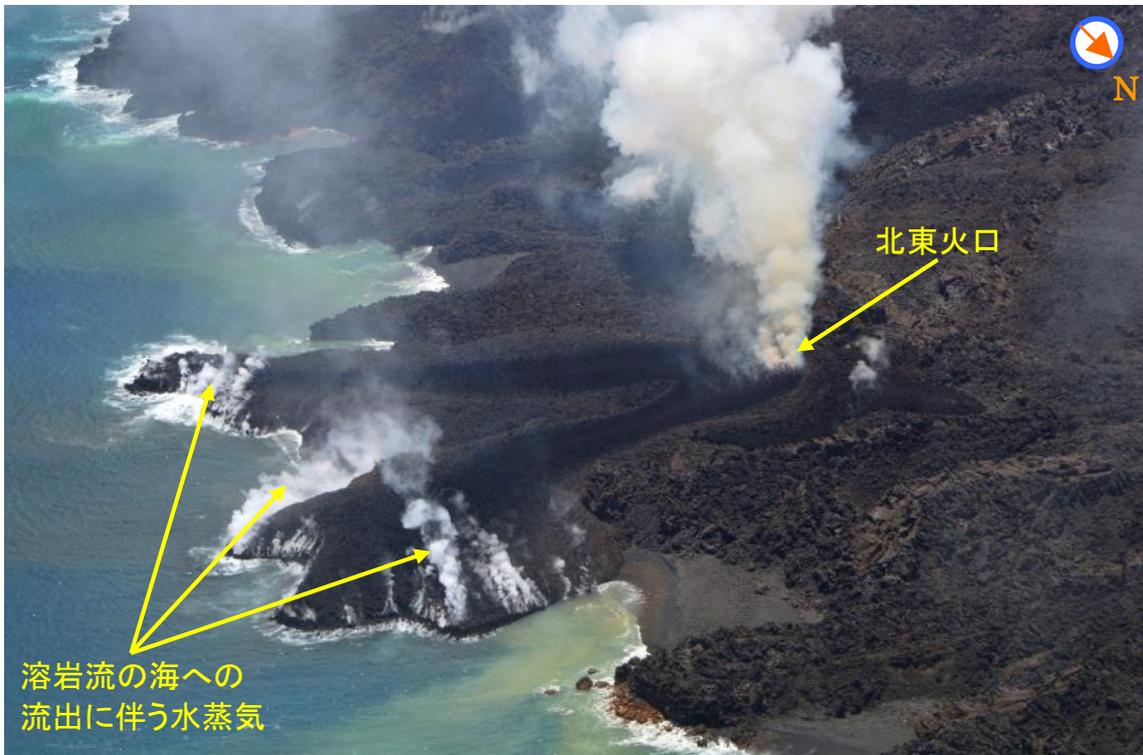


図3 北東火口から灰白色の噴煙を噴出している。(7月23日撮影)

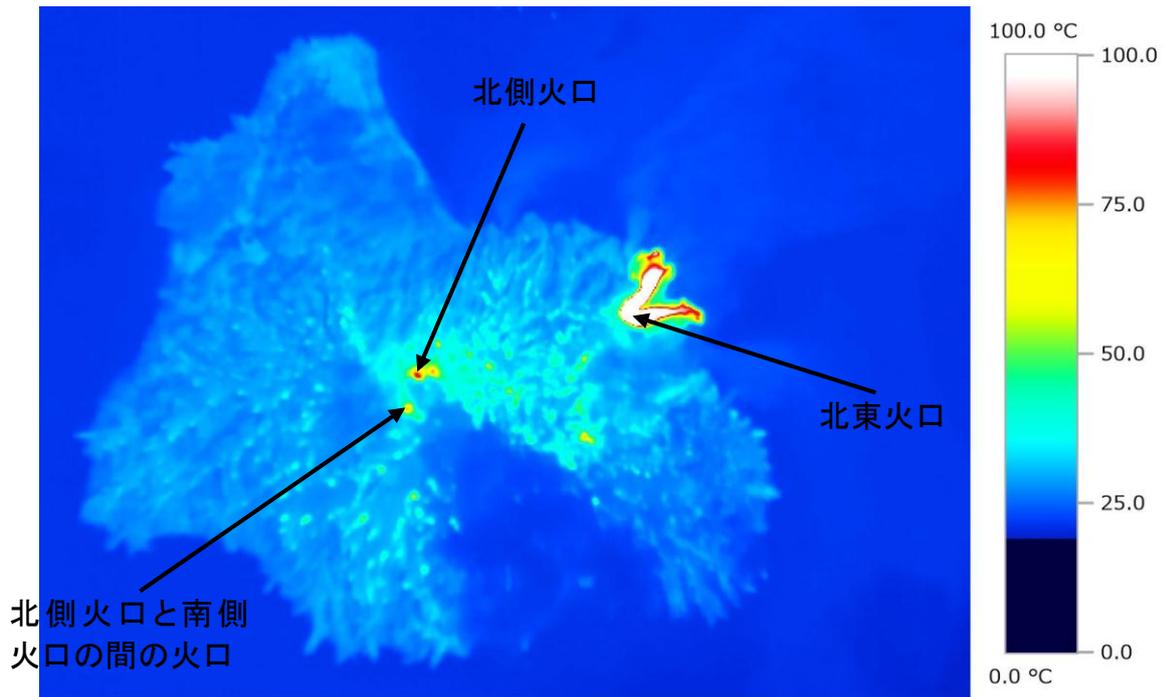


図4 熱画像の解析結果（7月23日撮影）

溶岩流が北東火口付近から北東岸方向に二筋流れているのが確認できる。

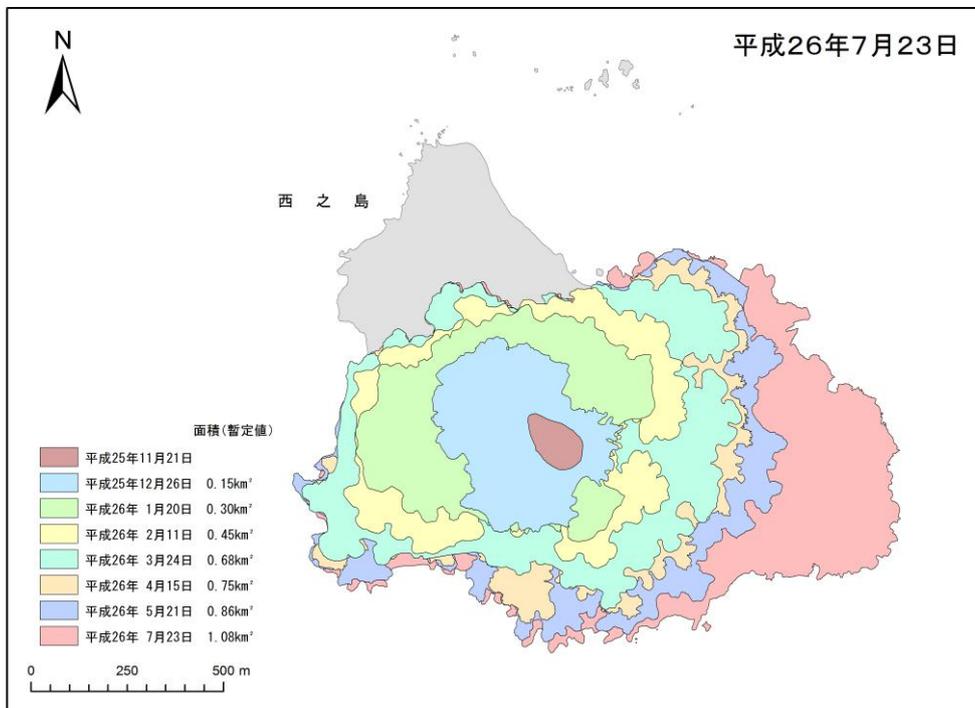


図5 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子